

債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)※
債券総合型ファンド(為替ヘッジなし)※
債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)(年2回決算型)
債券総合型ファンド(為替ヘッジなし)(年2回決算型)
追加型投信/海外/債券 ※債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)及び債券総合型ファンド(為替ヘッジなし)は毎月決算を行うファンドです。



- 本書は、金融商品取引法(昭和23年法律第25号)第13条の規定に基づく目論見書です。
- 本書にはファンドの約款の主な内容が含まれておりますが、約款の全文は投資信託説明書(請求目論見書)に掲載されております。
- ファンドに関する投資信託説明書(請求目論見書)は、委託会社のホームページで閲覧、ダウンロードできます。

■ 委託会社 (ファンドの運用の指図を行う者)

三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第347号

設立年月日：1986年11月1日

資本金：20億円

運用する投資信託財産の合計純資産総額：15兆8,108億円

(資本金、運用純資産総額は2025年4月30日現在)

■ 受託会社 (ファンドの財産の保管及び管理を行う者)

三井住友信託銀行株式会社

■ 照会先

 三井住友トラスト・アセットマネジメント

 ホームページ：<https://www.smtam.jp/>

 フリーダイヤル：0120-668001
(受付時間：営業日の午前9時～午後5時)



SMTAM投信関連情報サービス

お客様が指定されたファンドに関する情報(基準価額、レポート)や投資に関するコラム等をLINEでお知らせします。

※LINEご利用設定は、お客様のご判断でお願いします。
※サービスのご利用にあたっては、あらかじめ「SMTAM投信関連情報サービス利用規約」をご確認ください。

ご購入に際しては、本書の内容を十分にお読みください。

	商品分類		
	単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
債券総合型ファンド (為替ヘッジあり) 債券総合型ファンド (為替ヘッジなし) 債券総合型ファンド (為替ヘッジあり)(年2回決算型) 債券総合型ファンド (為替ヘッジなし)(年2回決算型)	追加型投信	海外	債券

	属性区分				
	投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
債券総合型ファンド (為替ヘッジあり)	その他資産 (注))	年12回(毎月)	北米	ファンド・オブ・ ファンズ	あり(フルヘッジ)
債券総合型ファンド (為替ヘッジなし)					なし
債券総合型ファンド (為替ヘッジあり)(年2回決算型)		年2回			あり(フルヘッジ)
債券総合型ファンド (為替ヘッジなし)(年2回決算型)					なし

(注)投資信託証券(債券 一般)

※商品分類及び属性区分の定義については、一般社団法人投資信託協会のホームページ(<https://www.toushin.or.jp/>)をご覧ください。

※属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

	ESG分類
債券総合型ファンド (為替ヘッジあり) 債券総合型ファンド (為替ヘッジなし) 債券総合型ファンド (為替ヘッジあり)(年2回決算型) 債券総合型ファンド (為替ヘッジなし)(年2回決算型)	ESG投信ではありません

この目論見書により行う債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)、債券総合型ファンド(為替ヘッジなし)、債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)(年2回決算型)及び債券総合型ファンド(為替ヘッジなし)(年2回決算型)の募集については、委託会社は、金融商品取引法第5条の規定により有価証券届出書を2025年7月10日に関東財務局長に提出しており、2025年7月11日にその届出の効力が生じております。

ファンドの商品内容に関して重大な変更を行う場合には、投資信託及び投資法人に関する法律(昭和26年法律第198号)に基づき事前に受益者の意向を確認いたします。

ファンドの信託財産は、信託法に基づき受託会社において分別管理されています。

投資信託説明書(請求目論見書)については、販売会社にご請求いただければ当該販売会社を通じて交付いたします。その際、投資者は自ら請求したことを記録しておいてください。

✓ ファンドの目的・特色



ファンドの目的

安定的な収益の確保と投資信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

ファンドの特色

1.

アライアンス・バーンスタイン・ルクセンブルグ・エス・エイ・アール・エル (AllianceBernstein (Luxembourg) S.a r.l.) が運用する下記の円建外国投資信託証券(以下「主要投資対象ファンド」といいます。)への投資を通じて、主として米ドル建ての公社債等に投資します。

〈各ファンドの主要投資対象ファンド〉

債券総合型ファンド(為替ヘッジあり) 債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)(年2回決算型)	アメリカン・インカム・ポートフォリオ - クラスIT(為替ヘッジあり)
債券総合型ファンド(為替ヘッジなし) 債券総合型ファンド(為替ヘッジなし)(年2回決算型)	アメリカン・インカム・ポートフォリオ - クラスIT(為替ヘッジなし)

各ファンドとも、主要投資対象ファンドへの投資割合は、原則として高位を維持します。

- 主要投資対象ファンドへの投資を通じて、主として米ドル建ての国債、政府機関債、投資適格社債、ハイイールド社債、新興国債券、資産担保証券などの公社債等に投資します。
- このほか、マネープールマザーファンドにも投資します。
- コマーシャル・ペーパー等の短期有価証券並びに短期金融商品等に直接投資する場合があります。

債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)及び債券総合型ファンド(為替ヘッジなし)を総称して「毎月決算型」、債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)(年2回決算型)及び債券総合型ファンド(為替ヘッジなし)(年2回決算型)を総称して「年2回決算型」ということがあります。

✓ ファンドの目的・特色

ファンドの特色

2. 積極的に魅力ある投資機会を追求します。

- 主要投資対象ファンドは、マクロ経済の環境や債券種別毎の相対的な魅力度等の分析を行い、投資機会を積極的に追求します。

主要投資対象ファンドの運用プロセス

投資ユニバース米ドル建の債券



アライアンス・バーンスタイン*の債券運用について

アライアンス・バーンスタイン*では、計量分析とファンダメンタル分析を融合した独自のアプローチにより、運用を行います。
 <アライアンス・バーンスタイン*の債券リサーチ・チーム>

計量分析

- 期待リターン予測
- リスク・モデルの開発
- ポートフォリオ最適化ツールの開発と維持

ファンダメンタル分析

マクロ分析

- 経済的背景を設定
- イールド・カーブの予測

信用分析

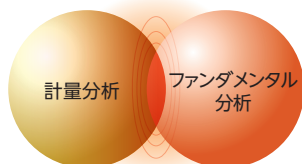
- 業界・企業レベルのトレンドを徹底検証
- 個別企業の財務評価
- 業種別チーム内のアナリスト・レビュー

証券化商品分析

- 債務不履行や返済期限延長リスクを分析

<債券運用の哲学>

債券市場に存在する非効率性は、市場心理や構造問題など複雑な要因が絡み合って価格形成が歪むことによって生じるものであり、それぞれ独立した計量分析とファンダメンタル分析が高度に融合することによって、初めてこれを余すところなく超過収益の源泉とすることができる。



※2025年4月末現在のものであり、今後変更になる場合があります。

*アライアンス・バーンスタインはアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。

出所：アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー



ファンドの特色


3. 主要投資対象ファンドにおける為替ヘッジが異なるファンドがあります。

〈各ファンドの主要投資対象ファンドの為替ヘッジの概要〉

債券総合型ファンド(為替ヘッジあり) 債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)(年2回決算型)	組入外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジにより、為替変動リスクの低減を目指します。
債券総合型ファンド(為替ヘッジなし) 債券総合型ファンド(為替ヘッジなし)(年2回決算型)	組入外貨建資産について、原則として為替ヘッジを行いません。

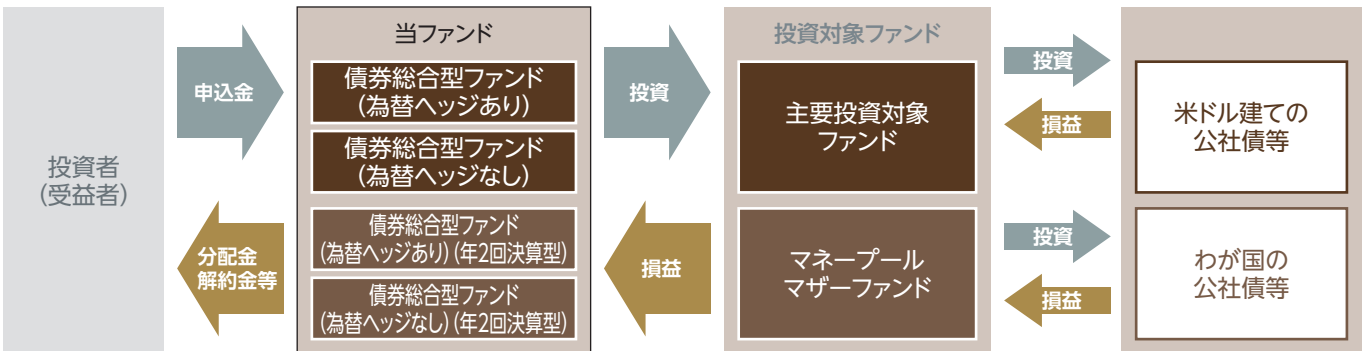
※為替ヘッジを行った場合でも、為替変動リスクを完全に排除できるとは限りません。米ドル建資産を対円で為替ヘッジする場合、概ね米ドル短期金利と円短期金利の差に相当する為替ヘッジコストがかかりますが、さらに需給要因等によっては金利差相当分を上回るコストがかかる場合があります。

4. 主要投資対象ファンドの実質的な運用は、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーが行います。

<p>アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーは、米国をはじめ世界26の国・地域、52都市に拠点を有し、総額約117.3兆円*(約7,845億米ドル)の資産を運用する世界有数の資産運用会社 ●資産運用業務で50年以上の歴史と実績 	<p>アメリカン・インカム・ポートフォリオについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1993年7月に設定され、30年以上の運用実績があります。 ●グローバルで約3兆7,952億円の資産を運用するファンドです。 <p>* 2025年3月末現在、1米ドル=149.540円で換算。運用資産総額には、傘下の関連会社分も含む。</p> <p>(出所)アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー</p>
--	--

ファンドのしくみ

ファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。



※投資対象ファンドの概要につきましては、後掲「追加的記載事項」をご参照ください。

? ファンド・オブ・ファンズ方式とは

投資者の皆様からお預かりした資金を、直接株式や債券といった資産に投資するのではなく、株式や債券に投資している複数の投資信託に投資して運用を行う仕組みです。

✓ ファンドの目的・特色

ファンドの特色

分配方針

債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)及び債券総合型ファンド(為替ヘッジなし)

- 毎月10日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、収益の分配を行います。
- 分配対象額は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益及び売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- 分配金額については、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。

収益分配のイメージ

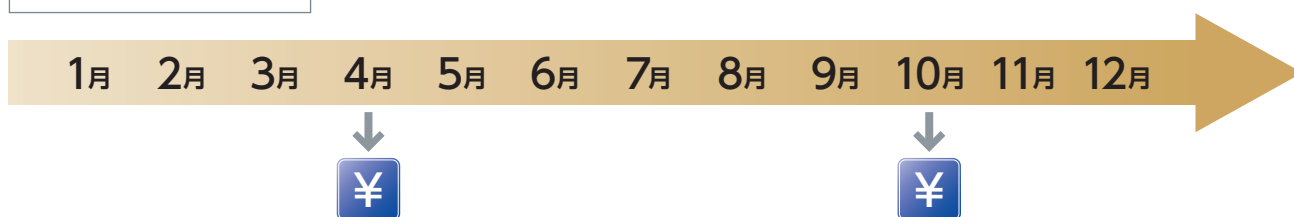


※上記はイメージであり、将来の分配金の支払い及びその金額について示唆あるいは保証するものではありません。

債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)(年2回決算型)及び債券総合型ファンド(為替ヘッジなし)(年2回決算型)

- 年2回(4月、10月の10日(休業日の場合は翌営業日))決算を行います。
- 分配対象額は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益及び売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- 分配金額については、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配を行わないことがあります。

収益分配のイメージ



※上記はイメージであり、将来の分配金の支払い及びその金額について示唆あるいは保証するものではありません。

主な投資制限

- 投資信託証券への投資割合には制限を設けません。
- 株式への直接投資は行いません。
- 外貨建資産への直接投資は行いません。
- デリバティブの直接利用は行いません。

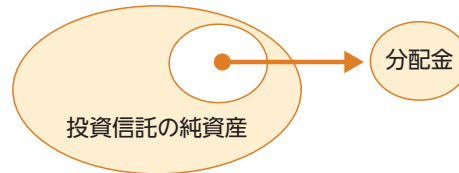
資金動向、市況動向、信託財産の規模等によっては、前記の運用ができない場合があります。



収益分配金に関する留意事項

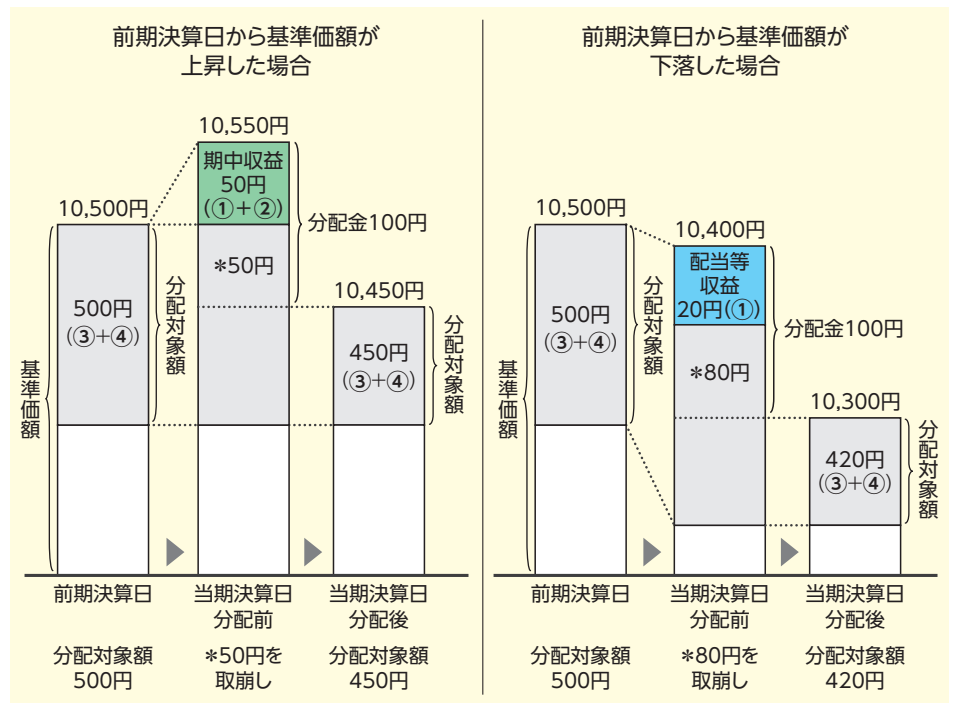
分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託で分配金が支払われるイメージ



分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益及び評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

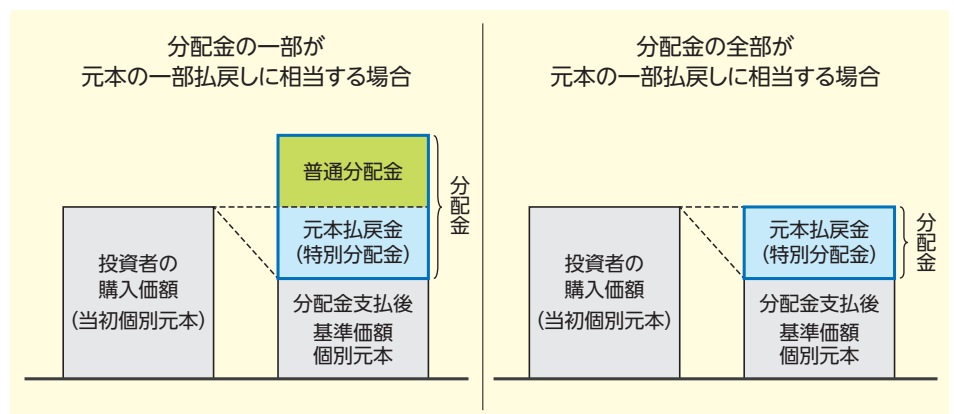
計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合



※分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。分配対象額とは、
 ① 経費控除後の配当等収益
 ② 経費控除後の評価益を含む売買益
 ③ 分配準備積立金
 ④ 収益調整金
 です。

※右記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆あるいは保証するものではありませんのでご注意ください。

投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部又は全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。



- 普通分配金** 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
 ※普通分配金に対する課税については、後掲「手続・手数料等」の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。
- 元本払戻金(特別分配金)** 個別元本を下回る部分からの分配金です。元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、分配後はその金額だけ個別元本が減少します。
 ※元本払戻金(特別分配金)部分は**非課税扱い**となります。

投資リスク

基準価額の変動要因

- ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。従って、**投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。**
- **信託財産に生じた利益及び損失は、全て投資者の皆様へ帰属します。**
- **投資信託は預貯金と異なります。**

金利変動リスク	債券の価格は、一般的に金利低下(上昇)した場合は値上がり(値下がり)します。また、発行者の財務状況の変化等及びそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。債券価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。
為替変動リスク	為替相場は、各国の経済状況、政治情勢等の様々な要因により変動します。投資先の通貨に対して円高となった場合には、基準価額の下落要因となります。債券総合型ファンド(為替ヘッジなし)及び債券総合型ファンド(為替ヘッジなし)(年2回決算型)は、為替変動の影響を大きく受けます。債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)及び債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)(年2回決算型)は、主要投資対象ファンドにおいて原則として為替予約を活用し、為替変動リスクの低減を図ることを基本としますが、完全にヘッジすることはできませんので、外貨の為替変動の影響を受ける場合があります。また、為替ヘッジを行う通貨の短期金利と円短期金利を比較して、円短期金利の方が低い場合には、当該通貨と円の金利差相当分のコストがかかりますが、さらに需給要因等によっては金利差相当分を上回るコストがかかる場合があることにご留意ください。
信用リスク	有価証券の発行体が財政難、経営不振、その他の理由により、利払い、償還金、借入金等をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなった場合、又はそれが予想される場合には、有価証券の価格は下落し、基準価額の下落要因となる可能性があります。
カントリーリスク	投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化、外国為替規制、資本規制、税制の変更等の事態が生じた場合、又はそれが予想される場合には、方針に沿った運用が困難になり、基準価額の下落要因となる可能性があります。また、新興国への投資は先進国に比べ、上記のリスクが高まる可能性があります。
流動性リスク	時価総額が小さい、取引量が少ない等流動性が低い市場、あるいは取引規制等の理由から流動性が低下している市場で有価証券等を売買する場合、市場の実勢と大きく乖離した水準で取引されることがあり、その結果、基準価額の下落要因となる可能性があります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ファンドは、大量の換金申込が発生し短期間で換金代金を手当てする必要がある場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止、取り消しとなる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

リスクの管理体制

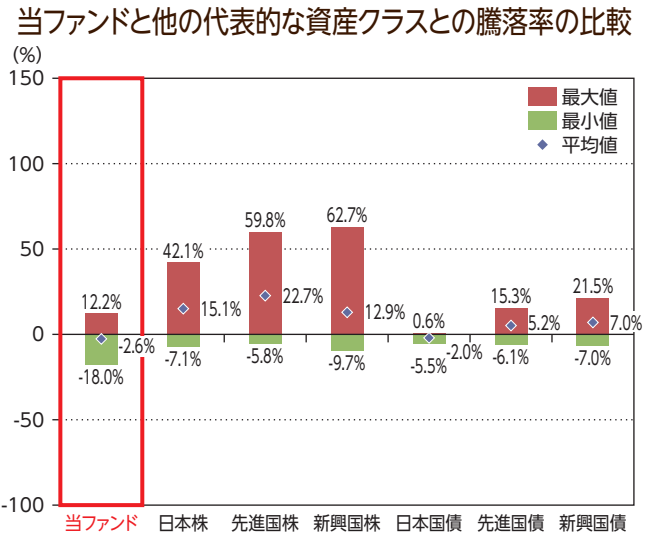
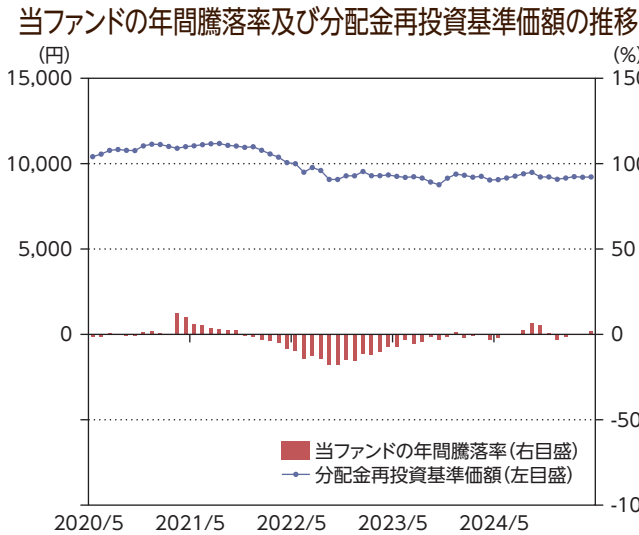
委託会社におけるリスク管理体制

- 運用部門から独立した運用監理部が、運用に関するリスク管理(流動性リスク管理等を含む)と法令等遵守状況のモニタリングを担当し、毎月開催される運用・リスク委員会等に報告します。

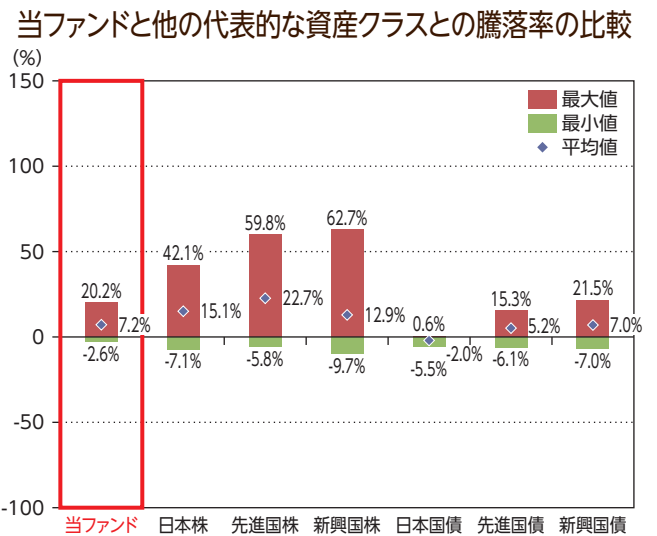
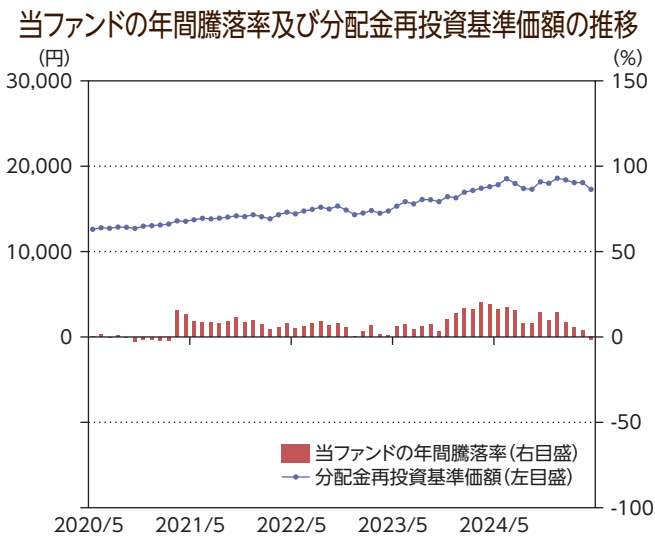


【参考情報】

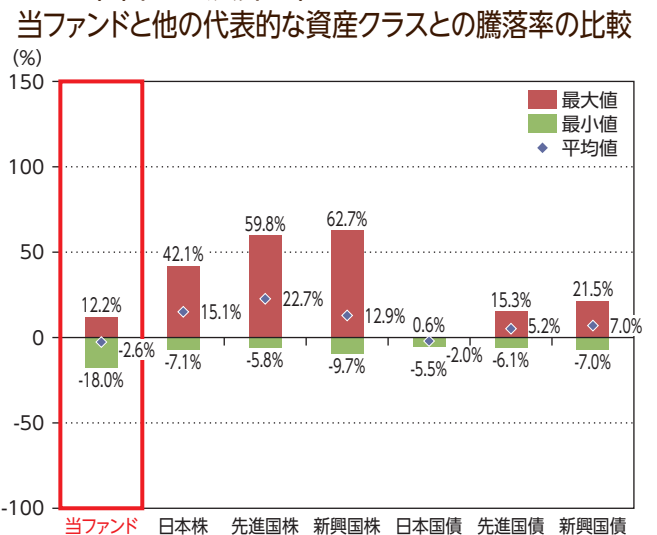
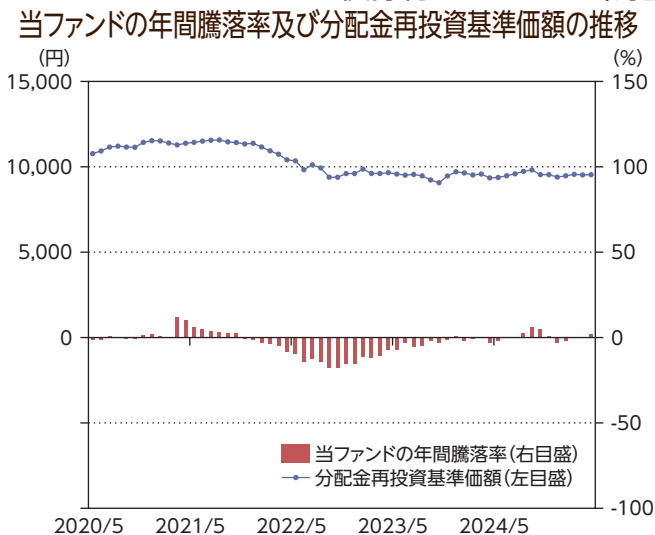
債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)



債券総合型ファンド(為替ヘッジなし)



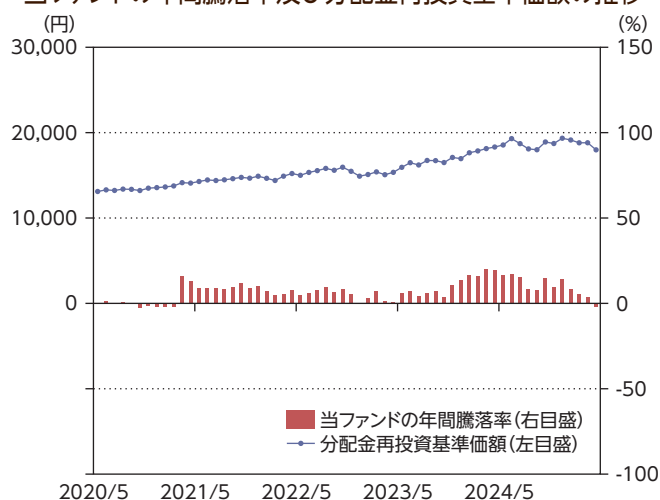
債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)(年2回決算型)



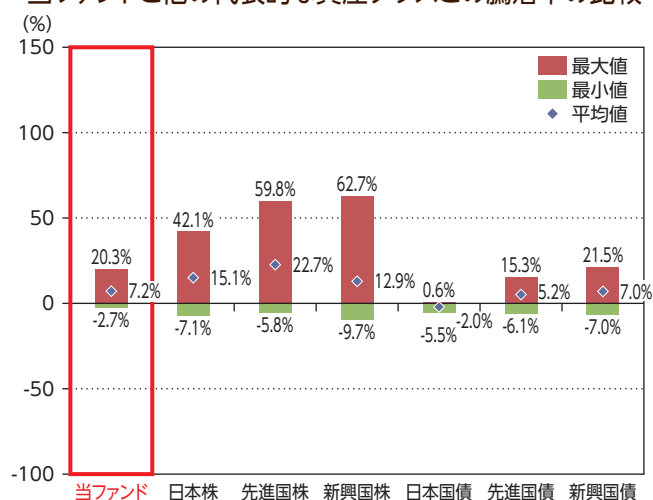
【参考情報】

債券総合型ファンド(為替ヘッジなし)(年2回決算型)

当ファンドの年間騰落率及び分配金再投資基準価額の推移



当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



*当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されていますので、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

*当ファンドの分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額が記載されていますので、実際の基準価額とは異なる場合があります。

*2020年5月～2025年4月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示し、当ファンドと他の代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。他の代表的な資産クラス全てが当ファンドの投資対象とは限りません。

*当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されていますので、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

各資産クラスの指数について

日本株 TOPIX (東証株価指数) (配当込み)	TOPIX (東証株価指数)とは、株式会社JPX総研が算出、公表する指数で、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されます。[配当込み]指数は、配当収益を考慮して算出した株価指数です。同指数の指数値及び同指数に係る標準又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウ及び同指数に係る標準又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、同指数の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。
先進国株 MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)	MSCIコクサイ・インデックスとは、MSCI Inc.が開発した日本を除く世界の主要国の株式市場の動きを表す株価指数で、株式時価総額をベースに算出されます。また「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した株価指数です。同指数に関する著作権等の知的財産権及びその他の一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。
新興国株 MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)	MSCIエマージング・マーケット・インデックスとは、MSCI Inc.が開発した世界の新興国株式市場の動きを表す株価指数で、株式時価総額をベースに算出されます。また「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した株価指数です。同指数に関する著作権等の知的財産権及びその他の一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。
日本国債 NOMURA-BPI国債	NOMURA-BPI国債とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する、国内で発行された公募固定利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスを基に計算されます。同指数の知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、同指数を用いて行われる当社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。
先進国債 FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)	FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性及び完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏又は遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
新興国債 JPMorgan・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)	本指数は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2014, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベース指数を使用しております。



債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)

基準価額・純資産の推移



基準価額	6,637円
純資産総額	8.60億円

分配の推移

(1万口当たり、税引前)

決算期	分配金
2024年12月	20円
2025年1月	20円
2025年2月	20円
2025年3月	20円
2025年4月	20円
直近1年間 分配金合計額	240円
設定来 分配金合計額	2,820円

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

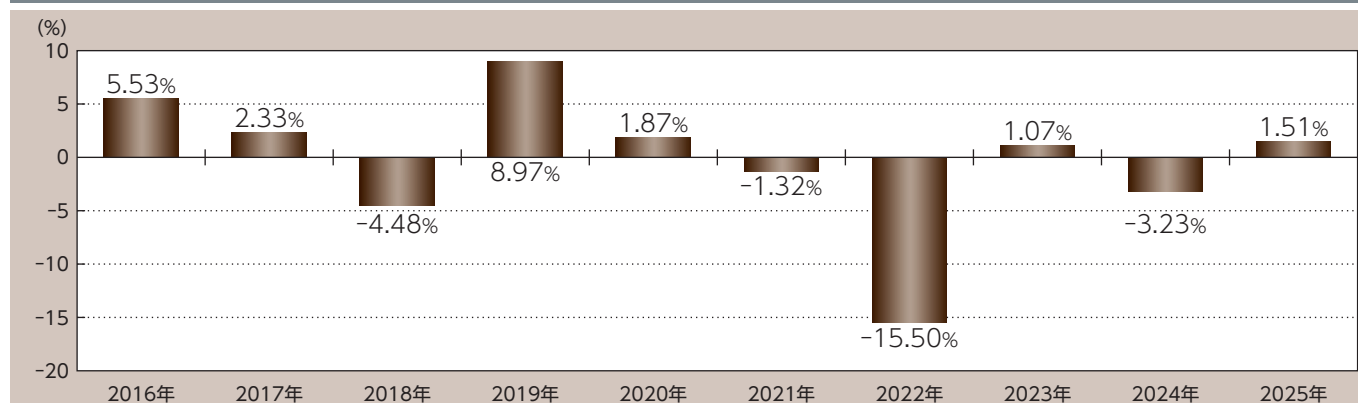
※基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。
※上記グラフは作成基準日以前の直近10年間を表示しております。

主要な資産の状況

投資信託証券	投資比率
アメリカン・インカム・ポートフォリオ - クラスIT(為替ヘッジあり)	98.1%
マネープールマザーファンド	0.0%

※投資比率は純資産総額に対する比率です。

年間収益率の推移(暦年ベース)



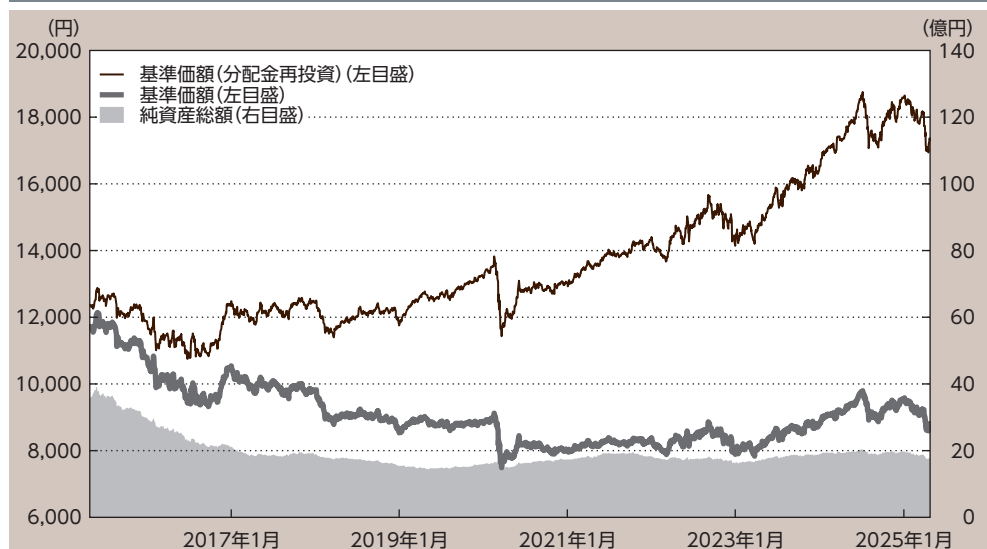
※収益率は分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。
※2025年は年初から作成基準日までの収益率です。
※ファンドには、ベンチマークはありません。

記載された運用実績は過去のものであり、将来の運用成果を約束するものではありません。

運用の内容等は、表紙に記載されている委託会社のホームページ等でご確認いただけます。

債券総合型ファンド(為替ヘッジなし)

基準価額・純資産の推移



基準価額	8,768円
純資産総額	17.80億円

分配の推移

(1万口当たり、税引前)

決算期	分配金
2024年12月	30円
2025年1月	30円
2025年2月	30円
2025年3月	30円
2025年4月	30円
直近1年間 分配金合計額	360円
設定来 分配金合計額	6,280円

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

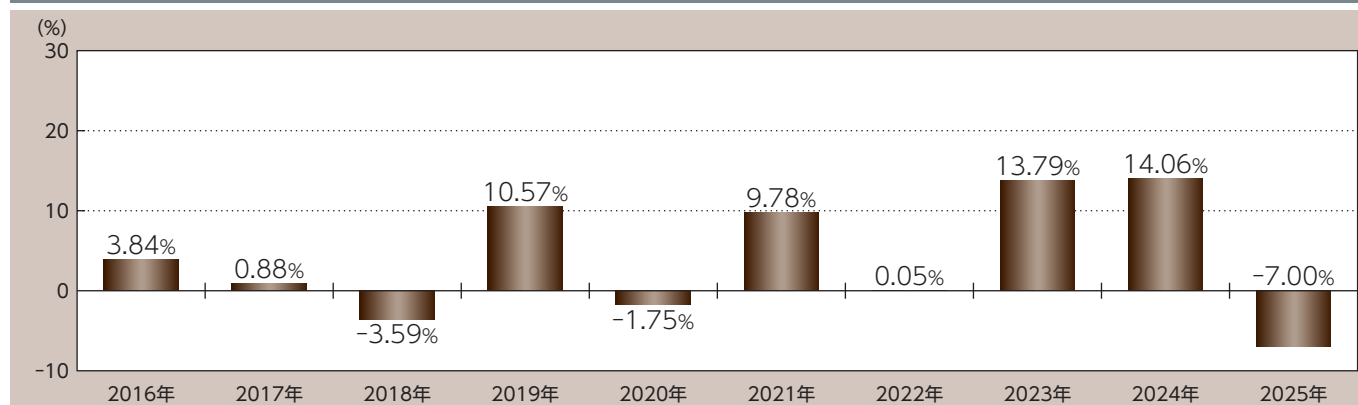
※基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しております。
※上記グラフは作成基準日以前の直近10年間を表示しております。

主要な資産の状況

投資信託証券	投資比率
アメリカン・インカム・ポートフォリオ - クラスIT(為替ヘッジなし)	98.1%
マネープールマザーファンド	0.0%

※投資比率は純資産総額に対する比率です。

年間収益率の推移(暦年ベース)



※収益率は分配金(税引前)を再投資したものとして計算しております。
※2025年は年初から作成基準日までの収益率です。
※ファンドには、ベンチマークはありません。

記載された運用実績は過去のものであり、将来の運用成果を約束するものではありません。

運用の内容等は、表紙に記載されている委託会社のホームページ等でご確認いただけます。

当初設定日：2013年10月17日
作成基準日：2025年4月30日



債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)(年2回決算型)

基準価額・純資産の推移



※上記グラフは作成基準日以前の直近10年間を表示しております。

基準価額	9,540円
純資産総額	12.02億円

分配の推移 (1万口当たり、税引前)

決算期	分配金
2023年4月	0円
2023年10月	0円
2024年4月	0円
2024年10月	0円
2025年4月	0円
設定来 分配金合計額	0円

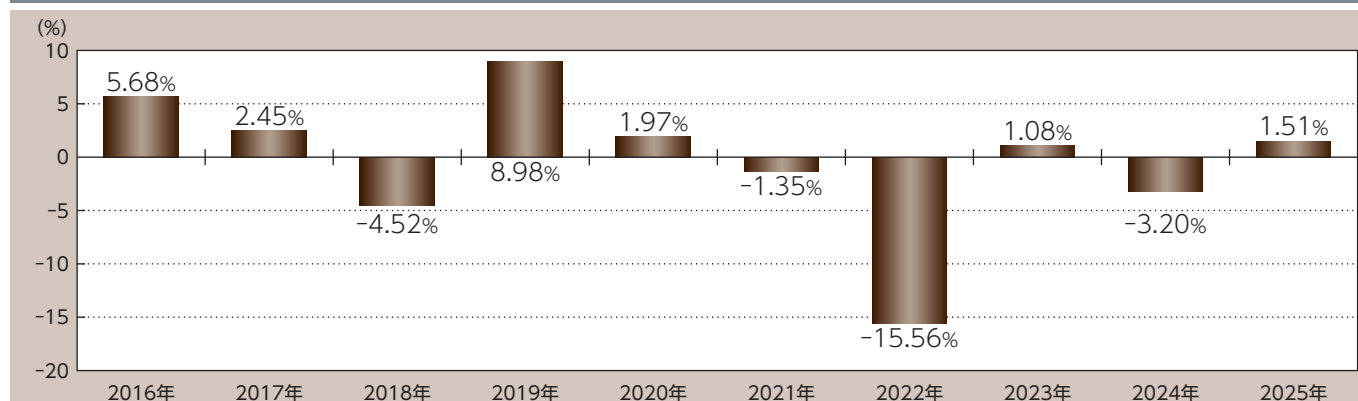
※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

主要な資産の状況

投資信託証券	投資比率
アメリカン・インカム・ポートフォリオ - クラスIT(為替ヘッジあり)	98.1%
マネープールマザーファンド	0.0%

※投資比率は純資産総額に対する比率です。

年間収益率の推移(暦年ベース)



※2025年は年初から作成基準日までの収益率です。

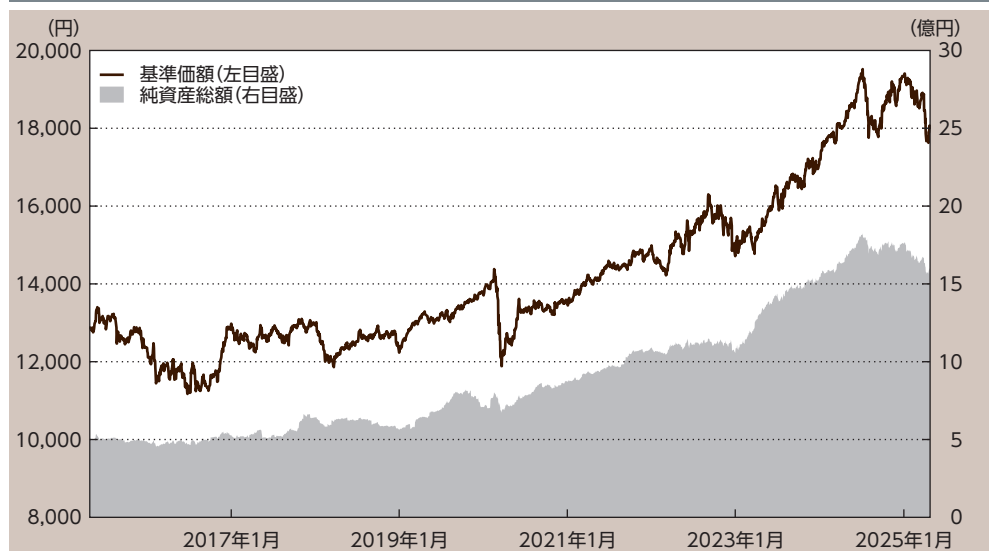
※ファンドには、ベンチマークはありません。

記載された運用実績は過去のものであり、将来の運用成果を約束するものではありません。

運用の内容等は、表紙に記載されている委託会社のホームページ等でご確認いただけます。

債券総合型ファンド(為替ヘッジなし)(年2回決算型)

基準価額・純資産の推移



基準価額	17,985円
純資産総額	15.94億円

分配の推移 (1万口当たり、税引前)

決算期	分配金
2023年4月	0円
2023年10月	0円
2024年4月	0円
2024年10月	0円
2025年4月	0円
設定来 分配金合計額	0円

※上記グラフは作成基準日以前の直近10年間を表示しております。

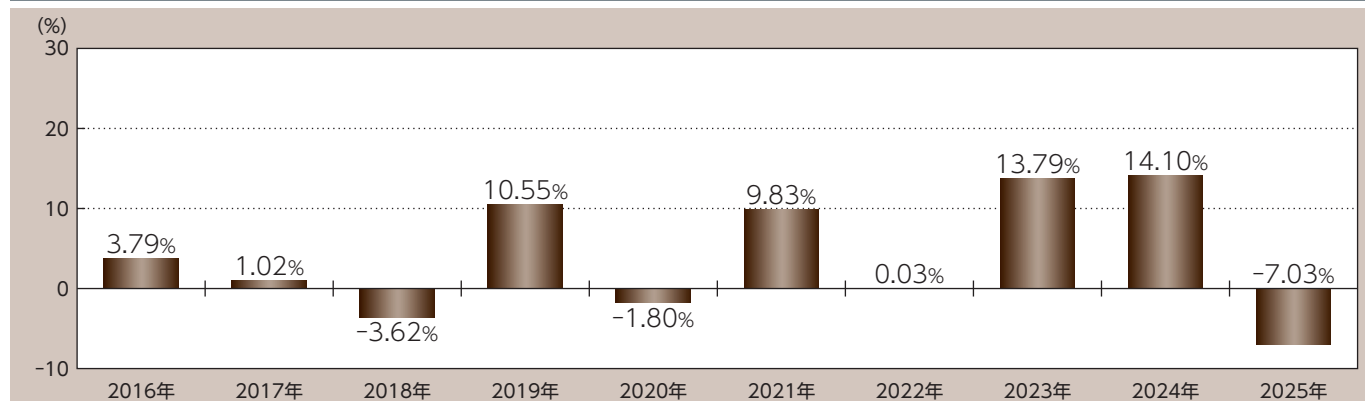
※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

主要な資産の状況

投資信託証券	投資比率
アメリカン・インカム・ポートフォリオ - クラスIT(為替ヘッジなし)	98.0%
マネープールマザーファンド	0.0%

※投資比率は純資産総額に対する比率です。

年間収益率の推移(暦年ベース)



※2025年は年初から作成基準日までの収益率です。
※ファンドには、ベンチマークはありません。

記載された運用実績は過去のものであり、将来の運用成果を約束するものではありません。

運用の内容等は、表紙に記載されている委託会社のホームページ等でご確認いただけます。



お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。(基準価額は1万口当たりで表示しています。)
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。(信託財産留保額の控除はありません。)
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として、販売会社の営業日の午後3時半までにお申込みが行われ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日のお申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入の申込期間	2025年7月11日から2026年1月9日までとします。 ※上記期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。
購入・換金 申込受付不可日	申込日当日が次のいずれかの場合は、購入・換金のお申込みを受け付けられないものとします。 ニューヨーク証券取引所の休業日 ルクセンブルクの銀行休業日
換金制限	ファンドの規模及び商品性格などに基づき、運用上の支障をきたさないようにするため、大口の換金には受付時間及び金額の制限を行う場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入・換金申込受付の 中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、及びすでに受け付けた購入・換金のお申込みの受付を取り消す場合があります。
信託期間	<毎月決算型> 原則として、2013年5月7日(設定日)から2028年4月10日までとします。 <年2回決算型> 原則として、2013年10月17日(設定日)から2028年4月10日までとします。
繰上償還	委託会社は、主要投資対象ファンドが償還されることとなった場合、その主要投資対象ファンドに投資を行っているファンドを解約し、信託を終了(繰上償還)させます。 次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了(繰上償還)させることができます。 ●受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合 ●ファンドを償還することが受益者のために有利であると認める場合 ●やむを得ない事情が発生した場合

お申込みメモ

決算日	<p><毎月決算型> 毎月10日(休業日の場合は翌営業日)です。 <年2回決算型>毎年4月、10月の各10日(休業日の場合は翌営業日)です。</p>
収益分配	<p><毎月決算型> 年12回、毎決算時に原則として収益分配を行う方針です。 <年2回決算型>年2回、毎決算時に委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して分配金額を決定します。 収益分配金の受取方法により、「分配金受取りコース」と「分配金再投資コース」の2つの申込方法があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。</p>
信託金の限度額	<p>5,000億円</p>
公告	<p>日本経済新聞に掲載します。</p>
運用報告書	<p><毎月決算型> 毎年4月及び10月の決算時並びに償還時に交付運用報告書及び運用報告書(全体版)を作成し、交付運用報告書を販売会社を通じて知れている受益者に対して交付します。 <年2回決算型>毎決算時及び償還時に交付運用報告書及び運用報告書(全体版)を作成し、交付運用報告書を販売会社を通じて知れている受益者に対して交付します。</p>
課税関係	<p>課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。 ファンドは、NISAの対象ではありません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※上記は、2025年4月30日現在のもので、税法が改正された場合等には、変更される場合があります。 なお、配当控除あるいは益金不算入制度の適用はありません。</p>
スイッチング	<p>「債券総合型ファンド」を構成する各ファンド間でスイッチングができます。 スwitchingの方法等は、購入、換金の場合と同様です。 (販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングの取扱いを行わない場合があります。)</p>



ファンドの費用・税金

〈ファンドの費用〉

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に 3.3%(税抜3.0%)を上限 として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。 購入時手数料は、商品説明等に係る費用等の対価として、販売会社にお支払いいただくものです。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	当ファンド	<p>運用管理費用(信託報酬)の総額は、以下の通りです。 信託期間を通じて毎日計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎計算期末又は信託終了のとき、信託財産から支払われます。</p> <p>純資産総額に対して年率1.078%(税抜0.98%)を乗じて得た額 $\text{信託報酬} = \text{運用期間中の基準価額} \times \text{信託報酬率}$ 支払先毎の配分は以下の通りです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>支払先</th> <th>内訳</th> <th>主な役務</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>委託会社</td> <td>年率0.33% (税抜0.3%)</td> <td>委託した資金の運用、基準価額の計算、開示資料作成等の対価</td> </tr> <tr> <td>販売会社</td> <td>年率0.715% (税抜0.65%)</td> <td>運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価</td> </tr> <tr> <td>受託会社</td> <td>年率0.033% (税抜0.03%)</td> <td>運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価</td> </tr> </tbody> </table>	支払先	内訳	主な役務	委託会社	年率0.33% (税抜0.3%)	委託した資金の運用、基準価額の計算、開示資料作成等の対価	販売会社	年率0.715% (税抜0.65%)	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価	受託会社	年率0.033% (税抜0.03%)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
	支払先	内訳	主な役務											
	委託会社	年率0.33% (税抜0.3%)	委託した資金の運用、基準価額の計算、開示資料作成等の対価											
	販売会社	年率0.715% (税抜0.65%)	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価											
受託会社	年率0.033% (税抜0.03%)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価												
投資対象とする投資信託証券	純資産総額に対して年率0.65% ・投資対象とする投資信託証券に係る信託財産の運用、基準価額の計算、運用財産の管理等の対価													
実質的な負担	純資産総額に対して 年率1.728%程度(税抜1.63%程度) *この値は目安であり、投資対象ファンドの実際の組入れ状況等により変動します。													
その他の費用・手数料	<p>有価証券の売買・保管、信託事務に係る諸費用等をその都度、監査費用等を日々、ファンドが負担します。この他、投資対象とする投資信託証券においては、当該投資信託証券の信託報酬とは別に、投資信託財産に関する租税や、投資信託の運営・運用等に要する諸費用が発生します。これらの費用は、運用状況等により変動するなどの理由により、事前に料率、上限額等を示すことができません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有価証券の売買・保管に係る費用:有価証券の売買・保管にあたり、売買仲介人・保管機関に支払う手数料 ・信託事務に係る諸費用:投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用及び受託会社の立替えた立替金の利息等 ・監査費用:監査法人に支払うファンドの監査に係る費用 													

※上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。

ファンドの費用・税金

〈税金〉

- 税金は表に記載の時期に適用されます。
- 以下の表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時期	項目	税金
分配時	所得税及び地方税	配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%
換金(解約)時 及び償還時	所得税及び地方税	譲渡所得として課税 換金(解約)時及び償還時の差益(譲渡益)に対して20.315%

※上記税率は2025年4月30日現在のものです。

※外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

※法人の場合は上記とは異なります。

※税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

(参考情報) ファンドの総経費率

直近の運用報告書作成対象期間におけるファンドの総経費率は以下の通りです。

	総経費率(①+②)	運用管理費用の比率①	その他費用の比率②
債券総合型ファンド (為替ヘッジあり)	1.85%	1.08%	0.77%
債券総合型ファンド (為替ヘッジなし)	1.85%	1.08%	0.77%
債券総合型ファンド (為替ヘッジあり)(年2回決算型)	1.85%	1.08%	0.77%
債券総合型ファンド (為替ヘッジなし)(年2回決算型)	1.85%	1.08%	0.77%

※対象期間は2024年10月11日～2025年4月10日です。

※対象期間中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、購入時手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した値(年率)です。

※投資先ファンドについては、入手し得る情報を基に記載しています。

※投資先ファンドにかかる費用は、その他費用に含まれています。

※ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

※これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

※詳細につきましては、対象期間の運用報告書(全体版)をご覧ください。

追加的記載事項



各ファンドが投資対象としている投資信託証券の概要は以下の通りです。

以下の内容は、2025年4月30日現在、委託会社が知り得る情報に基づいて作成しておりますが、今後、記載内容が変更となることがあります。

なお、投資対象ファンドの運用会社より確認した情報をもとにしており、記載している定義は、当該ファンドに限定されます。

投資対象ファンド	管理会社	主な投資対象・投資地域	運用の基本方針等
アメリカン・インカム・ポートフォリオ – クラスIT (為替ヘッジあり)	アライアンス・バーンスタイン・ルクセンブルク・エス・エイ・アール・エル	米ドル建ての公社債	主として米ドル建ての公社債等に投資し、元本の維持を図りながら、インカム収入の獲得を目指します。組入外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を目指します。
アメリカン・インカム・ポートフォリオ – クラスIT (為替ヘッジなし)	アライアンス・バーンスタイン・ルクセンブルク・エス・エイ・アール・エル	米ドル建ての公社債	主として米ドル建ての公社債等に投資し、元本の維持を図りながら、インカム収入の獲得を目指します。組入外貨建資産について、原則として為替ヘッジを行いません。
投資対象ファンド	運用会社	主な投資対象・投資地域	運用の基本方針等
マネープールマザーファンド	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	わが国の公社債等	この投資信託は、わが国の公社債を主要投資対象とし、安定した収益の確保を目指して運用を行います。

